

新学習指導要領「カリキュラム・マネジメント」と中学校漢文教材選択刷新の可能性について

—複数教科連携による漢文教材の多様化—

Man possibility of reforming the selection of teaching materials for Chinese classical writing in junior high schools with the “Curriculum Management” in the new course of study:

—Diversification of teaching materials for Chinese classical writing by collaboration between multiple subjects—

戸高 留美子¹

¹東京学芸大学人文社会科学系

Rumiko Todaka¹

¹Humanities and Social Sciences, Tokyo Gakugei University
4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, Japan 184-8501

キーワード：漢文教育 漢文教材, 新学習指導要領, カリキュラム・マネジメント

Key words : Kanbun teaching materials, New course of study, Curriculum management,

抄録

中学校漢文の教材は長年刷新が見られないままになっている。しかし平成28年12月に示された答申、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」では「学習指導要領等の枠組みの見直し」、「アクティブ・ラーニング」と共に「カリキュラム・マネジメント」が新学習指導要領の柱として位置づけられた。この提言は平成29年3月公示の学習指導要領にも反映されている。本論では「カリキュラム・マネジメント」に立脚した教科横断型授業の構成による漢文教材の選択拡大の可能性について考察した。今回は国語科の古典分野・漢文と、社会科の歴史分野との連携のケースを例示したのみだが、地域の文化・歴史や人的資源の有無などを鑑みながら総合的学習との連携も可能である。こうした従来の教科書に依拠した国語科教育の枠を超えた取り組みが、自文化に根付き現代社会ともつながる漢文との出会いを生徒にもたらすものと考えられる。

前言

平成20年3月公示の学習指導要領(以下、本論では「現行の学習指導要領」と称す)に「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の項目が加えられた。これに基づき編纂された教科書も古典的分野の教材の充実を図っている。しかしながら採録された教材そのものの選択に着目してみると、少なくとも著者が25年以上前に中学校で学習した当時とほとんど変化はない。中には添付された挿絵や写真さえ全く同じ教材も存在する事態に驚きを禁じえない。学習指導要領が改訂を重ね「目標」や「内容」が改変されても、教

材を変えぬまま対応できる状況の継続が教材の刷新を妨げた理由として考えられる。

現在使用されている教科書の教材もまた横並び状態にあり各社似通った選択になっている。縦の時間軸と横の同時代性との位置づけると、漢文教材の選択肢がかなり限定されたものになっていることが見て取れる。教科書の教材によって知的探求心を刺激された経験は誰しもあるだろう。義務教育の最終段階である中学校で基礎教養を獲得する機会を限定すべきではない。

本論では現行の学習指導要領の「目標」および「内容」と平成29年3月公示の学習指導要領(以下、本論では「新学習指導要領」と称す)との連続

性に注目し、併せて新学習指導要領の示唆する古典分野の新たな教材の選択の可能性について一考を加えてみたい。

1. 教材の「定番化」, 「横並び」, 「重複」

中学校の教科書だけに限定すると、例えば魯迅の「故郷」は長い間教材化され現在も各社全ての教科書に採録されている。定番中の定番だ。「字のないはがき」(向田邦子『国語』2 光村図書、『新編 新しい国語』2 東京書籍), も数次の改訂を経てなお残り続けている。いわゆる「定番教材」は古典分野以外にも存在する。しかし教材は適宜入れ替わっているにも関わらず漢文分野に関して言えばそれは非常に少ない。平成 29 年度現在の教科書会社 5 社(光村図書, 学校図書, 教育出版, 東京書籍, 三省堂。以下, 本論では「教科書会社 5 社」とする)全てで採録されている「矛盾」は昭和 25 年(大修館書店『中学国語』2 年)が初出, 同じく現在光村図書を除く 4 社の教科書で採用されている「春望」は昭和 27 年初出(中央書籍『新制中等国語 文学篇』3)だ[4]。

加えて、現在使用されている平成 27 年改訂版の教材も横並びに変化はない。教科書 5 社の中学校漢文教材を見ると、1 年で故事成語, 2 年で『論語』もしくは漢詩, 3 年では 2 年の逆になっている。

教科書により学習する学年が前後するもののほぼ教材の選択に差異はない。平成 20 年度学習指導要領改訂前後を比較しても、文末の図 3. のような状況にある[1]。

横並びが最も顕著なのは第 1 学年で学習する故事成語だ。前述の通り『韓非子』・難一の「矛盾」が全社の教科書で採用されている。ただ 1 社, 学校図書が「矛盾」と「五十歩百歩」(『孟子』・梁恵王上)を併せて教材を設定しているのみで、故事成語の教材は「矛盾」の一択しかない。

以上の「定番化」, 「横並び」と共に校種間の教材の「重複」の問題もある。平成 20 年度版の学習指導要領を受けて小学校でも古典分野の学習が開始された。教材と小学校との連続性が不可欠ではあるものの、教材の重複がある。また教材の導入にひたすら音読に力点を置く指導も継続している。こうした教材の重複と、繰り返される音読重視の指導が生徒の学習意欲を削ぐ懸念もある[2]。半田淳子氏は現行の学習指導要領の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に応じ中学校で教材化された古典作品(古文, 漢文ともに)が小学校で

も採用される状況に着目し、1, 文学作品の採用箇所が偏りがあること、2, 学習活動が「音読」に偏っていること、3, 教科書によって学習活動が異なっていること、4, 学習内容の積み上げと連続性に問題があること、の 4 点を指摘している[3]。著者も半田氏の指摘に共感するところだ。音読とリズムの体感に頼って古典に親しみを持ったかのような「感覚」を喚起する営為の反復に終止し、訓読法の訓練と句法の暗記しか生徒の記憶に残らなければ、あまりにも惜しい学びの機会の喪失だ。

繰り返しになるが、漢文教材選定にまつわる特徴的な事象として 1, 長期的に同じ題材が教材として採用される、2, 現在の各社の教科書で重複する教材が見られる。それぞれにメリット, デメリットが存在する。

まず教材の長期間の定番化は世代、使用教科書の別なく知識と教養を共有できる。教授者にとっても授業内容や教材の補完が容易になる。他方、個々の学習者が教科書で接する文学作品の数やジャンルはかなり限定される状況が続く。生徒は転校しない限り在学期間中一冊の教科書で学ぶ。一方で教師は複数社の教科書を閲覧する機会を持っている。過去の授業の教材による学習活動の補強を加える形で、生徒が接する文学作品のバリエーションを増やせるし、教科書は教員の最も手近なところに存在する資料でもある。そうした点を考慮に入れても、現在の教科書全てが似たり寄ったりの教材選定になってしまっている状況は少しでも多様な教材を教員に提供する可能性を狭めてしまう。故事成語にしても、漢詩文に馴染みのない初学の生徒でも知っている故事なら導入として学びやすい。出典の句法や用字が平易で扱いやすいものとなるとかなり絞り込まれてしまうが、「矛盾」だけが故事成語ではない。

教材選定と教授法と、双方にマンネリ化しがちな条件が重なっており、既定の教科書の枠を外す方法を考えるべきではないか。その方法の 1 つとして、新学習指導要領が提案するカリキュラム・マネジメントによる授業実施を活用できるのではないかと著者は考えている。単一教科ごとに分断された関連事項をつなぎ合わせたり、複数の視点からの多角的なアプローチを経て、より実感を伴った理解を生徒に促せるのではないか。

2. 中央教育審議会 答申の提言する「カリキュラム・マネジメント」と教材学習

新学習指導要領に先立ち平成 28 年 12 月、中央教育審議会の答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について」が出された(以下、本論では「H28. 12 答申」とする)。第 1 部第 4 章 2. において学習指導要領改善の改善点、充実の必要な点として「学習指導要領等の枠組みの見直し」、「カリキュラム・マネジメント」、「アクティブ・ラーニング」の 3 つが主要な柱とされている。

ここで提唱されている「カリキュラム・マネジメント」は「生きる力」の育成に必要な、社会との連携を図る試みの中に位置づけられている[7]。

こうした H28. 12 答申の内容が新学習指導要領に如何に反映されているのか。新学習指導要領第 1 章. 第 1. 4 は「カリキュラム・マネジメント」を以下のように定義している[8]。

各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

「カリキュラム・マネジメント」で構成される授業の実施のために教育課程の状況との兼ね合いを見ながら、場合によっては学校全体の体制づくりが必要となるケースもあろう。しかし「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」各教科の授業の進度や内容を合わせなければならないが、必ずしも大がかりな組織的改編が不可欠というわけではないだろう。ただし学校独自の学習計画や評価基準の策定などを要する場合もあり、学校側の対応力次第となってしまう。目標や内容の設定において各学校の裁量が大きく認められている総合的な学習の時間と古典学習の連携を取った活動の

報告例が多数見られるのは、学校側が柔軟に対応できる余地があれば教科横断型の手法を取った古典文学の学習が有意義な成果を出せることを物語っている。

この総合的学習の性質(第 4 章. 第 1, 第 2)は第 1 章. 第 5. 1 に記される努力事項や留意点とも一致しているため、新学習指導要領実施とともに学校全体の大々的な支援を受けた上での古典学習が展開されるものと著者は予測する。

3. 教科等横断的学習活動への期待

これまで述べてきたような古典作品の紹介とは別に、学校で学ぶ知識の集成という観点からも、カリキュラム・マネジメントによる教科横断型の授業の実施を希求する。現代文学と異なり作品の背景にある社会や文化に関する理解を生徒が持ち合わせていない漢詩文は、往々にして文法の知識の習得に生徒の興味関心が偏向する。そうでなくても作品の受容が個別的になりがちだ。

加えて、新学習指導要領の提示する古典作品受容のプロセスも心もとない。第 2 章. 第 1 節 2 の各学年の記述を見ると、音読に頼った導入(第 1 学年)、作品の特徴を生かした朗読、古典の世界に親しむ(第 2 学年)と、声を出す活動を軸にした作品へのアプローチ、理解が盛り込まれている。また、古典に表れたものの見方や考え方の理解(第 2 学年)から歴史的背景などを踏まえた作品世界の理解(第 3 学年)と段階を追った内容もあるものの、現在の生活や社会とは全く異なる作品世界を知る手がかりが教科書の現代語訳や語注(第 2 学年)のみとなると読解も容易ならざる古典に「親しむ」など難しい。第 3 学年ともなると社会科の歴史分野との連携を積極的に導入すべきではないか。

新学習指導要領の提唱する「カリキュラム・マネジメント」による教科横断的な学習活動が、古典分野の学習で具体的にどう展開し得るのか。特に、漢文教育に新しい内容を提示できるのかを以下、検討したい。

国語科の古典分野と連携を組む可能性が高い教科は複数考えられるが、本論では社会科、特に歴史分野との連携について言及する。新学習指導要領第 2 章. 第 2 節. 第 3. (2). エに以下のように明記されている[9]。

エ 地域の特色や変化を捉えるに当たっては、歴史的分野との連携を踏まえ、歴史的背景に留意して地域的特色を追求するよう工夫するとともに、公民的分野との連携にも配慮すること。

この3.(2).エにおける歴史的分野、公民分野との連携はあくまでも地理的分野の学習の補強という側面が強い。一方で歴史分野はより踏み込んだ内容で国語科、古典分野との連携が期待できる[10].

(エ) 古代の文化と東アジアとの関わり
 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解すること。

さらに詳細な内容を照覧する。例えば、同第2. [歴史的分野] 2. B. (1). (エ)などは取り組みやすい内容ではないか。

「仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立など」は漢文分野の文学作品ではなく漢字学習への補強が促されるものだ。また、「国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解すること」と大陸の学問、文化の流入から我が国固有の文化の発展までを触れている。

社会科・歴史分野と国語科の教授内容の関連性の強い箇所がいくつかある。中でも本論では『千字文』の伝来から国風文化の隆盛までの期間に注目し、社会科・歴史分野と国語科の古典分野とで学習の関連付けができないか模索してみた。

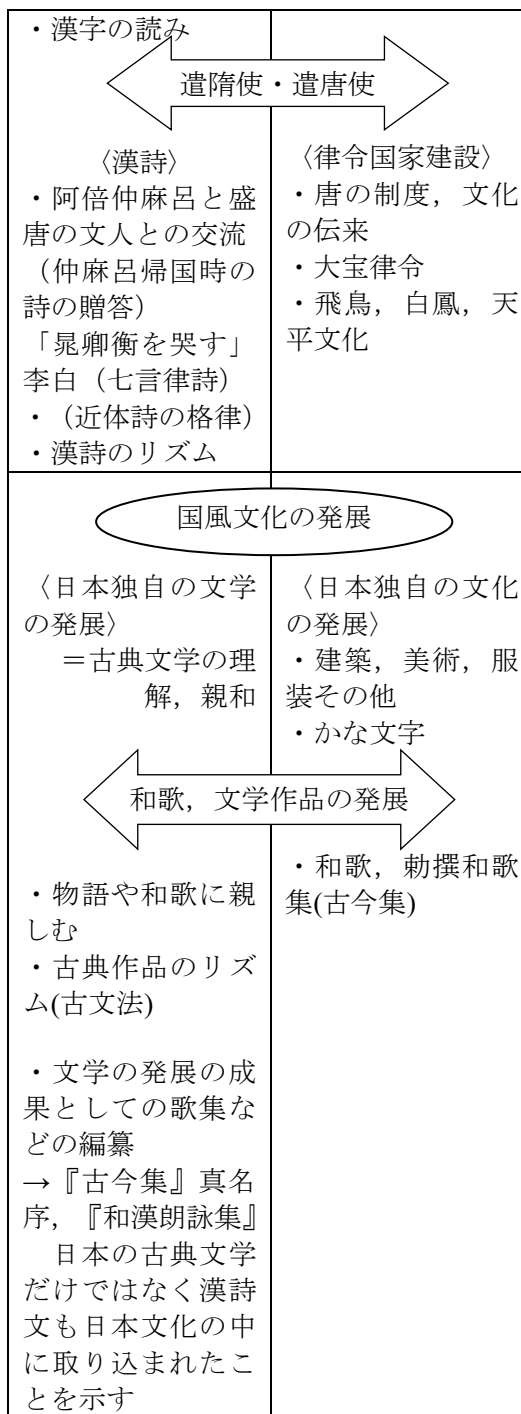
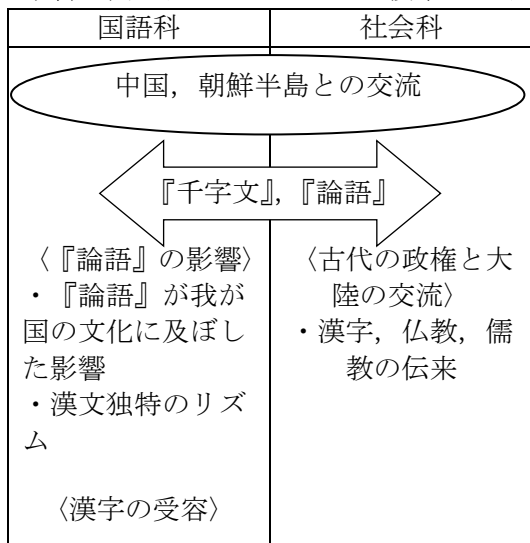


図 1. 国語科と社会科・歴史分野との連携例 古代における日本と中国文化圏の連動について ※国語科の「近代詩の格律」は新学習指導要領に基づいた教科書において学習内容として採用されるか否か予測がつかないため、()とした。

図 1. について説明を加える。中国，朝鮮半島との交流」・「『千字文』，『論語』」の項だ。前掲第二節. 第2 [歴史的分野]. B. (1). (エ)において『論語』と文字習得の初級教材である『千

字文』の伝来を学べる。教科書によって前後するが『論語』は国語科の第2学年または第3学年で学習する教材だ。『論語』は中国国内に限らず、日本を含む東アジア圏で学術的、精神文化面で基盤を成した。日本では知識階層を中心に庶民にいたるまで教養として深く浸透した歴史がある。

「遣隋使・遣唐使」の項に本論では注目した。遣唐使と当時の中国の文人との深い交流を裏付ける資料を提示できる。例えば、遣唐使の一員として唐に派遣された留学生のうち、阿倍仲麻呂(安倍仲麿)の名が教科書でも挙げられている。仲麻呂は当地で科挙試験に合格し高級官僚に取り立てられるほどの学識を備え、同時に王維、李白といった当代一流の文人たちとの交際を持った。753年(天宝12載、天平勝宝5年)仲麻呂は帰国することとなったが、途上船団は難破する。それを知った李白は仲麻呂が遭難死したものと誤解し「晁卿衡を哭す」を作った。

社会科で教授する律令制や学術的知識の輸入を補強する意味でも、人間同士の交流の深さを生徒に感じて欲しい。ちなみに、「晁卿衡を哭す」は過去に1、秀英出版『私たちの国語』3、1924、(改訂1952、『私たちの国語』文学と言語を統合したもの3、1956)、2、二葉『国語 総合』1959で教材化されている。1、は「ばらの花」(吉川幸次郎著。雑誌「世界の子供」所収)という題で李白の詩4編(「独り敬亭山に坐す」、「東山を憶う」、「汪倫に贈る」、「晁卿衡を哭す」)を解説している。「ばらの花」本文は「日本人と外国人との、美しい心の交わりは、こういうふうには、千年の昔にもあったのです」(原文ママ)とまとめられている[5]。

末尾の「研究」は5つの課題のうち2つが「晁卿衡を哭す」に関係しており「仲麻呂のように外国へ勉強に言った人を留学生というが、仲麻呂のほかに、名高い留学生はどんな人があるか調べてみよう」とある[6]。

次いで「国風文化の発展」・「和歌・文学作品の発展」について、国風文化が発展した時期であっても文化の担い手である貴族たちの間で中国古典文学は基礎教養であり続け、日本人が作った漢詩文も存在する。そうした作品を取り上げながら、新学習指導要領 第1節 第2.2.〔知識及び技能〕に掲げられた指導事項の、少なくとも漢文分野の授業での実行は可能だ。

図1.について概略を述べると以上のようになる。図1.は歴史分野の複数の単元にわたる内容になっているものの、トピックの1つ「遣唐使」を中心とした授業の構成を考案してみた。遣唐使は中学校歴史分野で必ず学習する項目であり、阿倍仲麻呂(安倍仲麿)は「小倉百人一首」に歌が残っており中学生でも記憶にとどめやすい人物の一人だ。また、「晁卿衡を哭す」の作者李白は杜甫と並び最も親しまれている文人であり、全社の教科書に作品が採録されている。

遣唐使をきっかけとして唐代の文人との出会いを知り、千年以上も前から外国の人々との心の交流があったこと、中国からもたらされた漢詩文(学問)が我が国でも重要な知的財産となり、自分たちと隔絶した世界のものではないと生徒が親近感を抱けるだろう。

前掲の図1.から授業のイメージを具体的にするために、以下単元指導計画案を添えておく。

単元指導計画案

時間数	学習内容
1	①漢詩鑑賞について確認(教科書) ②阿倍仲麻呂(安倍仲麿)の人物像、状況への理解 ・遣唐使として唐へ留学 →「天の原～」で知られた歌人 強い望郷の念を抱きながら帰国がかなわなかった ③仲麻呂を取り巻く唐の環境 →唐王朝が最も栄えた盛唐の時代 →当時活躍した有名な詩人たちについて確認
2	①仲麻呂と文人たちとの心的交流の存在を知る →「晁卿衡を哭す」創作の背景事情の理解 →「晁卿衡を哭す」 ②全く隔絶しているものと捉えがちな異文化と自文化との間に、共感が存在しうることを理解する。

図2. 国語科と社会科・歴史分野との連携例、単元指導計画案

この単元指導計画案は全2時間の展開になっているが、この前に社会科で唐代の国際情勢や文化、日本の律令制開始と唐との交流など、社会科として必須事項の学習がなされていることが前提となっている。教科間の連絡次第ではもっと内容をコンパクトにしスピード感のある展開が望める。

最後に、前掲の新学習指導要領第1章4、および第2章、第2節第3。(2)。エに述べられる地域文化や地域的特色の理解について触れたい。例えば歴史上有名な人物ゆかりの場所であれば、彼らの残した漢詩文を照覧してみるのもよいかかもしれない。郷土史の研究者や図書館、資料館などの学芸員の協力があれば、より充実した成果が得られる。

4. 結語

本文中に引用した新学習指導要領第1章4の示す通りカリキュラム・マネジメントの実現のために各学校とも教育課程と人員配置の再編が必要な場合もある。実際問題として多忙を極める現場の教員の負担がさらに増す結果にもなりかねない。この点は学校単体の努力以上に学校運営の在り方自体の改変をもって解消される障害もあろう。

そうした課題はあるものの、カリキュラム・マネジメントにより教科横断型の授業が実施できれば全く新しい作品との出会い、教科の枠組みにとらわれない観点からの学習が達成される。新学習指導要領中、地域社会からの資源の摂取と学習成果の還元が最終的目標として掲げられている。授業の題材を提供し得る人材が豊富であったり、学問継承の歴史を有する地域であればそれらを積極的に授業に活用できないだろうか。漢文が遠い昔のもの、今日の自分たちの生活から切り離されたものではなく、身近な場所に根付き現在もさまざまな形で活かされている存在として生徒に感じさせたい。

一例として本論中では遣唐使と当時の唐の文人たちの交流を教材として取り上げた。中学校国語で教材化されている漢詩は全て唐詩だ。一方、歴史分野では我が国における律令国家建設の過程で隆盛を極めていた唐を中心とする国際情勢や当地の文化の特徴などを生徒たちは学ぶ。「元二の安西に使ひするを送る」(「漢詩」『中学校国語』3学校図書・平成27年3月検定済)の背景には、シルクロード沿いに勢力を伸ばした唐と吐蕃との抗

争があった。元二の向かう安西は陽関の外、都・長安の人々にとって異民族の支配する別天地だった。だからこそ酒を勧めて止まぬ惜別の情がある。

古文漢文に対する苦手意識や拒絶感は「わからない」ゆえの抵抗から生じてくるように見受けられる。逆も然りで古典に対する「親しみ」は諸事腑に落ち「わかる」ところから出発するのではないか。既存の知識を複合的に組み合わせ新しい発見をする喜びを伴っていれば学習意欲も増すだろう。現代に生きる生徒の生活実感からは離れているかのように見える漢詩文だが、「晁卿衡を哭す」など距離を縮める方法を複数取りやすい作品や、他にも地域の著名な文人や近現代の作家たちの漢詩文を取り上げるのもよいかかもしれない。本当の意味での「親しみ」を実感しながら生徒には漢文分野の学びを始めて欲しい。

今回は詩を主に取り上げたが、故事成語や論語は道徳や総合的な学習の時間などと連携もあるだろう。古典は触れ方次第でいくらかでも新しいアプローチが成立する。先人たちが学問として重んじ、現在の私たちの生活にも生きている中国古典の教養が絶えぬように、漢文分野における新しい教材の積極的採用を期待する。

引用文献

<雑誌>

[1]文末図3.の作成にあたり、平成17年検定済、および平成23年検定済教科書の教材は宮崎洋一氏の研究論文を検証した上で引用した。宮崎氏の成果に著者自身で調査を実施し平成27年検定済教科書の教材を付加した。

宮崎洋一. 中学校・高等学校の国語の教科書に掲載された漢文の教材一覧. 文教國文學, 2012, 56, p44-28

宮崎洋一. 中学校・高等学校の国語の教科書に掲載された漢文の教材一覧(その2). 文教國文學, 2015, 59, p42-20

[2] 半田淳子. 学習指導要領の改訂と小中学校の国語教科書が抱える課題. 教育研究. 2013, 55, p129-149

[3]前掲注[2]

<書籍の中の論文、章など>

[4]中学校国語教科書内容索引-昭和24~61年度、初版、教科書研究センター、1986, p2-37.

[5] 秀英出版『私たちの国語』3. 1924, p24

[6] 前掲注[5].

<ウェブサイト>

[7] 中央教育審議会“幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申)(中教審第197号)”
文部科学省ホームページ.

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/138090

2_0.pdf,(参照 2017-8-20).

[8] 文部科学省“中学校学習指導要領”文部科学省ホームページ.

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1384661_5.pdf, (参照 2017-8-20).

[9] 前掲注[8].

[10] 前掲注[8].

Abstract

The teaching materials for Chinese classical writing in junior high schools have remained unchanged for many years. However, “curriculum management” has been positioned as a pillar of the new government course guidelines together with a “review of the framework of the government course guidelines” and “active learning” in the “Improvement and Required Policy for the Government Course Guidelines in Kindergartens, Elementary Schools, Junior High School, High Schools and Special Support Schools” report presented in December 2016. This proposal was also reflected in the government course guidelines publicly announced in March 2017. This study examines the possibility of expanding the selection of teaching materials for Chinese classical writing according to the composition of classes across subjects based on “curriculum management.” This study only exemplifies cases of cooperation between the classic field or Chinese classical writing in Japanese language and the history field in social studies. Nevertheless, there is also a possibility for cooperation with comprehensive learning while considering regional culture or history, the existence human resources and other factors. Efforts beyond the framework of Japanese language education reliant on such conventional textbooks will give students encounters with Chinese classical writing that also tie together with modern society while being rooted in their own culture.

(受付日：2017年12月21日，受理日：2018年7月5日)



戸高 留美子 (とだか るみこ)

現職：東京学芸大学教育学部人文社会科学系非常勤講師
(2018年3月末日現在)

東京学芸大学 大学院 教育学研究科 修士課程修了.

お茶の水女子大学 大学院 博士後期課程 人間文化研究科 単位取得退学.

専門は中国古典文学. 主に西晋・左思(字は太冲)の代表作「三都賦」に関し，当時の社会情勢が創作に与えた影響や後漢から魏晋期までの賦史における「三都賦」創作意義について検討した.

No	出版社名		光村図書			教育出版			東京書籍			学校図書			三省堂			
	検定年(平成)		17	23	27	17	23	27	17	23	27	17	23	27	17	23	23	27
	出典 (詩は作者と時代)	教材	国語	国語	国語	伝え合う言葉 中学国語	伝え合う言葉 中学国語	伝え合う言葉 中学国語	新しい国語	新しい国語	新しい国語	中学校国語	中学校国語	中学校国語	現代の国語	中学生の国語	中学生の国語 学びを広げる	現代の国語
1	論語	学而篇	3	3	3	2	2	2								3		3
2		為政篇										2	2	2	3	1		3
3		為政篇	3	3	3				2									3
4		為政篇	3	3	3				2		3	2	2	2	3			
5		為政篇										2	2	2				
6		里仁篇				2	2	2										
7		雍也編			3													
8		顔淵篇	3			2	2	2		3	3							3
9		子路篇								3	3							
10		子路篇		3														
11		衛霊公篇										2	2	2				
12		陽貨篇									3							
13		衛霊公篇								3	3				3			
14	書経	商書 説命中														3		
15	十八史略															3		
16	孟子	梁恵王上										1	1	1				
17		梁恵王上											3					
18		公孫丑下								3								
19	韓非子	難一	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
20	史記	項羽本紀														3		
21	史記	項羽本紀		3														
22	漢書	趙充國伝														3		
23	後漢書	班超伝														3		
24	盛唐	王翰								2	2							
25	盛唐	孟浩然	2	2	2										2	1	3	2
26	盛唐	王維															2	
27	盛唐	王維										3	3	3				
28	盛唐	李白										3	3	3				
29	盛唐	李白	2	2	2	3	3	3	3	2	2				2	2		2
30	盛唐	李白															1	
31	盛唐	杜甫	2	2	2											2		
32	盛唐	杜甫				3	3	3	3	2	2	3	3	3	2	2		2
33	中唐	柳宗元								2	2							
34	晚唐	杜牧															3	
35	北宋	蘇軾								3	3							

文末図3. 平成17年, 23年, 27年検定済教科書採録漢文教材一覧表

※文法事項の例文などの引用例は含めない。